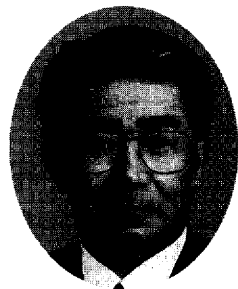




国産・高級服地に特化して

長尾大八郎・長大（株）社長



会社概要

- 業務内容 紳士・婦人服地製造、糸染め
- 設立 1949年(創業1946年)
- 最新年商 45億円(2002年度)
- 従業員 150名(男子110名、女子40名)
- 本社 愛知県一宮市栄1-10-17
- 工場 大宮工場(一宮市大宮5)、今伊勢工場(一宮市今伊勢町)
- ブランド 「スーパーテックス」、「ハイランドスーパー」

尾州産地を代表するテキスタイルメーカーで、長尾さんは産地の織物組合（尾西毛織工業協同組合）の理事長を務めている。

会社の売上構成は紳士服地28億円、婦人服地12億円、糸染め5億円であるが、テキスタイルメーカーで糸染め部門を保有しているのは、産地でもまれなケース。この点について長尾さんは「糸染めは他社からの受注もあるが、QR（クイック・レスポンス）で威力を発揮している」と語っている。

服地は紳士物が主体であるが、婦人服地を含めて100%国産にこだわっている。生産の内訳は自家生産55%、外注45%で、自家生産比率が高い。「あくまでも、ジャパंकオリティで勝負する」と長尾さんは強調する。

主力の紳士服地のブランドは切り売り、イージーオーダー向けが「スーパーテックス」、既製服向けが「ハイランドスーパー」であるが、両ブランドでの共通点は「高級化」である。同社は過去、オーダー、イージーオーダー、既製服と時代の流れと共に、また店頭別では専門店、百貨店、郊外型と自在に対応してきたが、21世紀になって「改めて超高級素材で、百貨店を攻める」方針を打ち出した。

カシミア、アルパカ、アンゴラなど、付加価値が出しやすい素材、超高級が表現できる素材の拡大に本格的に取り組んでおり、こうした分野を現行の20~30%から大幅に拡大する。小売り価格ではイージーオーダーを含めて8万円から12万円、有名ブランドは10万円以上をねらっていく。

郊外型紳士服専門店向けでは生地提案、製品納入を行っているが、この分野でも「高級路線」は貫く。現在、縫製は海外で60~70%行っているが、生地はあくまで日本製で、小売り価格で4万9000円から7万8000円というゾーンを展開していく。

更に2002年からアンゴラ素材をイタリアの有名ブランドに輸出するなど、同社の国際評価は高まっているが、2003年になって高級素材でフランスへの成約にも成功した。

長尾さんは「国内でも価格志向は限界。これからは本格的ファッションが主流をしめていくだろう」と展望を語っている。

